

「アメリカ・ウォーターフロント事情」

視察団長 神奈川県土木部長 岸本貞典

1. はじめに

このたび、米国のウォーターフロントの計画や整備の事情視察団を(財)リバーフロント整備センターが企画し、実施しました。それは、平成元年10月15日から10月28日の僅か2週間で、ニューヨーク市を始め、シカゴ、セントルイス、サンアントニオ、ロサンゼルス、サンフランシスコの六つの都市で、合計12の機関を訪問し、15ヶ所の現地を見てまわる駆足の旅でした。

当視察団は総勢27名で、行政機関、公益法人、建設コンサルタント、総合建設会社などの業務に従事する人達で構成されましたが、全員元気に旅行ができ、また、10月17日サンフランシスコ湾岸一帯の地震(ロマ・プリダ地震)発生の一週間後に、サンフランシスコ市を訪問するという奇遇な経験をもはさみ、米国の先行事例を視察してまいりました。以下に、限られた紙面の中で、その視察調査の概要を紹介することといたします。

2. 視察ポイント

今回の視察には、大きく分類して、次の3つの視察ポイントがありました。

Point 1. 米国沿岸管理と環境審査の実情

これには、今回の訪問地のうちAuto Portプロジェクト

(事業主体 N.Y. & N.J. Port Authority)、ニューヨーク都市計画局でのミーティング、California Coastal Commissionでのミーティング等が関連しています。

Point 2. 都市再開発における水辺の活用

これには、シカゴ、セントルイス、サンアントニオの三都市の都市再開発が関連しています。

Point 3. ウォーターフロント開発プロジェクトの実情。

①大規模複合開発——Newport, Battery Park Cityの各プロジェクト。

②住空間開発——Port Liberte, Arverneの各プロジェクト(以上ニューヨーク都市圏)、およびRedwood Shoresプロジェクト(サンフランシスコ効外)

③商業空間開発——サンフランシスコのピア39等。

以下では、Point 1およびPoint 2について、若干述べてみたいと思います。

3. 米国の沿岸管理と開発の実情

米国のウォーターフロント開発においては、連邦法である米国沿岸管理法(Coastal Management Act, 1972年制定)、連邦環境政策法(National Environmental Policy Act, 1969年制定) および各州・市の関連法規制等を基に開発計画が行なわれており、近年のウォーターフロント開発



写真-1 視察団一行

計画で重要視されているのは次の4点です。

- a. 自然環境、特に多種の動植物の生息の場である湿地等の保護は特に重要視されている。
- b. 近年の公共スペースの減少傾向に対して、公共スペースの確保が重要視されている。
- c. ボート購入人口の増大に対応したマリナー関連施設は緊急性がある。
- d. 商業・サービス施設の水辺への誘致のプライオリティは高い。

4. 都市再開発における水辺の活用

今回の訪問都市の内、シカゴ、セントルイス、サンアントニオの三都市では、都市そのものの再開発の中(写真-2、写真-3、写真-4)で、水辺空間が重要な役割を果たしています。この三都市を視察して、その都市整備の経緯を追いながら、各段階毎に整理をしてみると、いくつかの重要な共通点を見出すことができます。

① 都市再開発の背景の共通性

- a. 歴史的には、ともに水に関わる困難に直面している。つまり、シカゴにおいては上水の水源であるミシガン湖の水質の悪化。セントルイスにおいては河港倉庫群の荒廃。サンアントニオでは、市街地を壊滅させた洪水。
- b. 1950年代からの市街地の空洞化。

② 都市再開発の方向性

ともに、過去において、都市再開発の方向を決定的にし

た重要な選択を行なっている。つまり、シカゴでは、ミシガン湖の水質改善を目的として、シカゴ川のミシガン湖への流入を制御するための運河開削。セントルイスでは、一度は撤廃の案もあったラクリーズ・ランディング地区の保存。サンアントニオでは、一度は廃川の案もあったサンアントニオ川市街地部分のRiver Park Conceptの採用。

③ 都市再開発の核

ともに水辺を核としている。つまり、シカゴではレイクフロントおよびシカゴ川等河川のリバーフロント。セントルイスではラクリーズ・ランディング地区。サンアントニオではリバーウォーク。

④ 都市再開発の手法

都市再開発の手法においても、三都市に共通する点があります。とくに顕著なものとして、

- a. 水辺と都市との結びつきを盛り込んだガイドラインの存在。
- b. 行政部局と独立した、計画の審査等を行なうコミッション(Commission)の存在。
- c. セントルイス、サンアントニオでは、民間資本を積極的に活用しようとしている。

以上、この三都市における都市再開発の方向づけにおいては、「水辺」が核的な役割を果たしています。言い換えれば、「水辺」を核として位置づけることで、都市再開発の方向性が明確になりやすいということが言えるのではないのでしょうか。



写真-2 シカゴ ミシガン湖レイクフロント



写真一 3 サンアントニオ リバーウォーク



写真一 4 セントルイス ミシシッピ川河畔 セントラル・リバーフロント

5. おわりに

今回の視察におきまして、我々の訪問に対して万全の準備

とスタッフをそろえて迎えていただきました米国の各機関の御協力に、心より感謝の意を表したいと思います。